

## マレーシア工科大学一行による筑波大学/筑波研究学園都市訪問予定

1月13日、マレーシア・クアラルンプールサテライトオフィスの杉浦則夫筑波大学特命教授/MJIIT教授のもとに国際協力事業団（JICA）を通してマレーシア政府の命を受け、マレーシア工科大学（UTM）副学長補(Deputy Vice Chancellor)、国際部長他の一行が、筑波大学および筑波研究学園都市を視察したいとの申し出がありました。

マレーシア政府は、筑波研究学園都市が筑波大学を中心とする日本の多くの国公立及び民間の科学技術研究・開発機関などの集積地域であり、しかも整然とかつ効率的に連携・運営され機能して日本の経済産業の発展に寄与しており世界的にも成功していることに注目しています。そこでマレーシアのジョホールバル地域に計画されている研究都市建設のモデルとして、是非、筑波研究学園都市を視察したいとの意向が示されたものです。

茨城県出身であり、茨城県庁にも長く奉職した経験のある筑波大学杉浦則夫特命教授は、都市構想の計画、建設、現状の経緯、将来像などの知見を集積している機関との調整依頼を受け、すでに日本側では生命環境系岩本浩二准教授が各機関との連絡・情報交換、調整を活発に行っているところです。

今回、2月中旬（予定2月17日、18日）の筑波大学および関係機関の訪問に際し、1月22日、マレーシア工科大学国際部長ホー・チン・シオン教授がMJIITの筑波大学サテライトオフィスを事前に訪問され、日程、目的と内容、訪問先の機関などの事前調整会議を行いました。会議出席者は、マレーシア側はマレーシア工科大学ホー・チン・シオン国際部長/教授、日本側は、マレーシアの人材育成・研究体制に造詣が深い山本隆司MJIIT副院長（日本側代表）、日本の大手企業研究機関経験者の後藤雅史MJIIT教授、そして杉浦則夫筑波大学特命教授/MJIIT教授です。具体的な訪問の目的、質問事項などについては以下に示しました。

目的は、マレーシア国の研究・技術開発の促進と普及を図るため、筑波研究学園都市をモデルとして科学・研究都市を設立し、実践するためです。今回のマレーシア側訪問団が視察で入手したい主な情報は、次の通りです。

- ・筑波研究学園都市の計画・設計と実施の経緯  
各関係諸機関の役割、予算体制、土地利用計画、運営体制など
- ・政府と産業界連携によって世界的に成功していると評価される要因
- ・科学技術イノベーション、製品開発のための機関の学園都市への誘致政策、支援体制
- ・地方における先端産業誘致、質の高い雇用、経済発展の実現のための政策

今回のマレーシア工科大学副学長補（マレーシアでは学長は国王、大学のトップは副学長（Vice Chancellor）、その補佐役が Deputy Vice Chancellor であり、日本の大学の副学長に該当します。）一行の筑波大学および筑波研究学園都市への訪問に際し、現在、日本側現地の調整役として筑波大学生命環境系長白岩善博教授をはじめ生命環境系岩本浩二准教授、システム情報系甲斐田直子助教、茨城県庁、つくば市役所の各関係部署の方々に大変お世話になっています。この訪問団の受入れは、究極的にはマレーシアの科学技術研究の発展に結び付く重要な案件であり、大きな期待がかかっています。



左から山本隆司 MJIIT 副院長（日本側代表）、マレーシア工科大学ホー・チン・シオン国際部長/教授、杉浦則夫筑波大学特命教授/MJIIT 教授